

問1 景気が過熱して物価が上がりすぎている局面において、日本銀行が景気を安定させるために行う「公開市場操作」の説明として適切なものはどれですか。（2018年 大分県公立入試 類似）

1. 日本銀行が一般の銀行に国債を売り、市場の通貨量を減少させる
2. 日本銀行が一般の銀行から国債を買い、市場の通貨量を増加させる
3. 日本銀行が一般の銀行に国債を売り、市場の通貨量を増加させる
4. 日本銀行が一般の銀行から国債を買い、市場の通貨量を減少させる

問2 日本銀行が「銀行の銀行」と呼ばれている理由として、その具体的な業務の説明として適切なものを選んでください。（2023年 奈良公立入試 類似）

1. 市中の銀行などの金融機関に対して、資金の貸し出しや預金の受け入れを行うため
2. 国内のすべての銀行の支店配置や営業時間を決定する権限を持っているため
3. 銀行の窓口で市民が預け入れた預金の全額を、日本銀行が常に保管しているため
4. 民間銀行が経営難に陥った際、その銀行の株主となって経営を完全に代行するため

問3 近年、クレジットカードや電子マネーなどを利用したキャッシュレス決済が急速に普及している。これらの決済の多くは、銀行口座にある資金を移動させることで行われるが、このように銀行などに預けられ、支払い手段として利用できるお金を経済学上の用語で何というか。（2025年 青森県公立入試 類似）

1. 預金通貨
2. 現金通貨
3. 基軸通貨
4. 暗号資産

問4 景気が停滞している不況期において、日本銀行が民間金融機関から国債などを買い入れることで、市場に流通する通貨量を増やし、景気の回復を図る政策を何といいますか。（2022年 徳島公立入試 類似）

1. 買いオペレーション
2. 売りオペレーション
3. 預金準備率操作
4. 所得再分配政策

問5 インフレーションが進行している経済状況において、物価の動きと通貨（お金）の価値の関係について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2020年 沖縄公立入試 類似）

1. 物価が継続的に上昇することで、同じ金額の貨幣で買えるモノの量が減るため、通貨の価値は下がる。
2. 物価が継続的に上昇することで、通貨の流通量が増大し、通貨の希少性が高まってその価値は上がる。
3. 物価が継続的に下落することで、同じ金額の貨幣でより多くのモノが買えるようになり、通貨の価値は上がる。
4. 物価が継続的に下落することで、企業の生産意欲が減退し、景気が悪化するため、通貨の価値は下がる。

問6 家計・企業・銀行の三者の間で行われる資金の循環について、その仕組みを説明した文として最も適切なものはどれですか。

（2025年 茨城公立入試 類似）

1. 銀行は、家計から集めた預金を原資として企業などに貸し出しを行い、借り手から支払われる利子を受け取る。
2. 銀行は、日本銀行から預かった資金のみを家計に貸し出し、家計は銀行に対して税金を支払う。
3. 企業は、銀行を介さずすべての資金を家計から直接借り入れ、その見返りとして預金準備率を操作する。
4. 家計は、銀行に預金を行うことで利子を支払う義務が生じ、その資金は政府の財政政策にのみ使用される。

問7 かつて行われていた「物物交換」と比較したとき、社会に貨幣が普及したことで得られた経済的な利点として、適切な説明はどれですか。（2023年 富山公立入試 類似）

1. 自分の欲しいものと相手の欲しいものが一致しなくても、貨幣を介することで取引が可能になった。
2. 貨幣自体が食べ物や衣服のように生活に直接役立つため、交換しなくても豊かになれるようになった。
3. すべての商品の価値が貨幣の素材（金属など）の重さだけで決まるようになり、価格変動がなくなった。
4. 貨幣があれば労働をする必要がなくなり、社会全体の生産性が飛躍的に向上した。

問8 日本銀行が景気の後退を抑え、経済を活性化させるために行う金融政策について、民間銀行が保有する国債を日本銀行が買い取り、市場に流通する通貨（マネーストック）の量を増やす操作を何と呼びますか。（2023年 熊本県公立入試 類似）

1. 公開市場操作（買いオペレーション）
2. 公開市場操作（売りオペレーション）
3. 預金準備率操作
4. 公定歩合操作

答え合わせ・解説

問1	答え 1 日本銀行が一般の銀行に国債を売り、市場の通貨量を減少させる	景気が過熱しているときは、物価の上昇（インフレーション）を抑える必要があります。日本銀行が保有する国債を一般の銀行に売却すると、その代金として銀行から資金が日本銀行へ回収されます。これにより、市場に出回る通貨の量が減り、消費や投資が抑制されて景気が安定へと向かいます。
問2	答え 1 市中の銀行などの金融機関に対して、資金の貸し出しや預金の受け入れを行うため	日本銀行は私たち一般の個人や企業とは取引を行わず、民間の銀行（市中銀行）などの金融機関を相手に取引を行います。具体的には、民間銀行に対して資金を貸し出したり、民間銀行が持っている余剰資金を日本銀行の当座預金として受け入れたりします。このため、銀行のための銀行という意味で「銀行の銀行」と呼ばれます。この仕組みを利用して、景気の状況に応じて通貨の流通量を調節する金融政策が行われます。
問3	答え 1 預金通貨	紙幣（日本銀行券）や硬貨は、手渡しで使う「現金通貨」と呼ばれる。これに対し、銀行の普通預金や当座預金などは、クレジットカードの引き落としや振り込みなどを通じて支払いに利用できるため、「預金通貨」と呼ばれる。現代の経済社会では、現金通貨よりも預金通貨の方がはるかに大きな金額で取引されている。
問4	答え 1 買いオペレーション	不況のときには、日本銀行が銀行などが保有する国債を買い取ることで、その代金として現金を市場に供給します。これにより、民間銀行が企業や個人に貸し出せる資金が増え、経済活動の活性化を促す狙いがあります。好況のときに行われる「売りオペレーション」と混同しないように注意が必要です。
問5	答え 1 物価が継続的に上昇することで、同じ金額の貨幣で買えるモノの量が減るため、通貨の価値は下がる。	インフレーションにより物価が上がるということは、昨日まで100円で買っていたリンゴが今日は150円出さないと買えなくなるような状態を指します。これは「100円玉」という通貨を持つ「モノと交換する力」が弱まったことを意味するため、物価の上昇は通貨価値の下落と表裏一体の関係にあります。
問6	答え 1 銀行は、家計から集めた預金を原資として企業などに貸し出しを行い、借手から支払われる利子を受け取る。	金融機関は、多くの主体から預金という形で小口の資金を集め、それをまとめて大口の資金として必要とする側に貸し出します。この仕組みにおいて、銀行は貸し出し先から利子を受け取り、預金者にはそれよりも低い利率で利子を支払います。日本銀行が家計や企業と直接預金・貸し出しの取引を行うことはなく、利子のやり取りは税金や財政政策とは異なる経済活動の一部です。
問7	答え 1 自分の欲しいものと相手の欲しいものが一致しなくても、貨幣を介することで取引が可能になった。	物物交換では「自分が持っているもの」と「相手が欲しがっているもの」が完全に一致しなければ取引が成立しませんでした。しかし、貨幣が交換手段として機能することで、いったん商品を貨幣に換え、その貨幣を用いて別の場所や時間で自分が必要なものを手に入れることができるようになりました。このように、貨幣は交換の不一致を解消し、取引を円滑にする背景を持っています。
問8	答え 1 公開市場操作（買いオペレーション）	景気が悪いとき、日本銀行は民間銀行から国債などを買い入れることで、その代金として大量の資金を市場に供給します。これを「買いオペレーション」と呼び、世の中に出回る通貨量を増やすことで金利を下げ、企業が資金を借りやすくして景気の回復を図ります。